

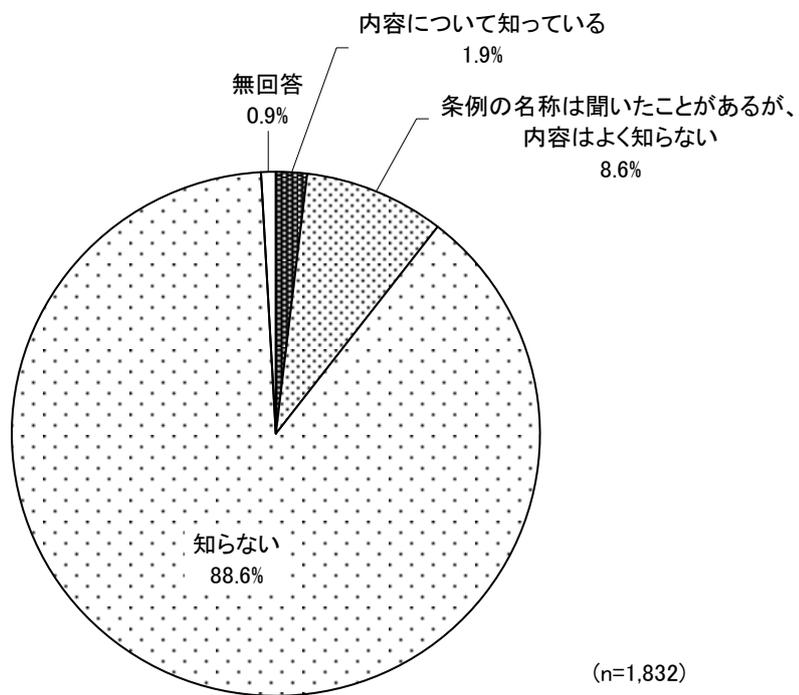
6. 認知症

(1) 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度

◎ 「知らない」が9割近く

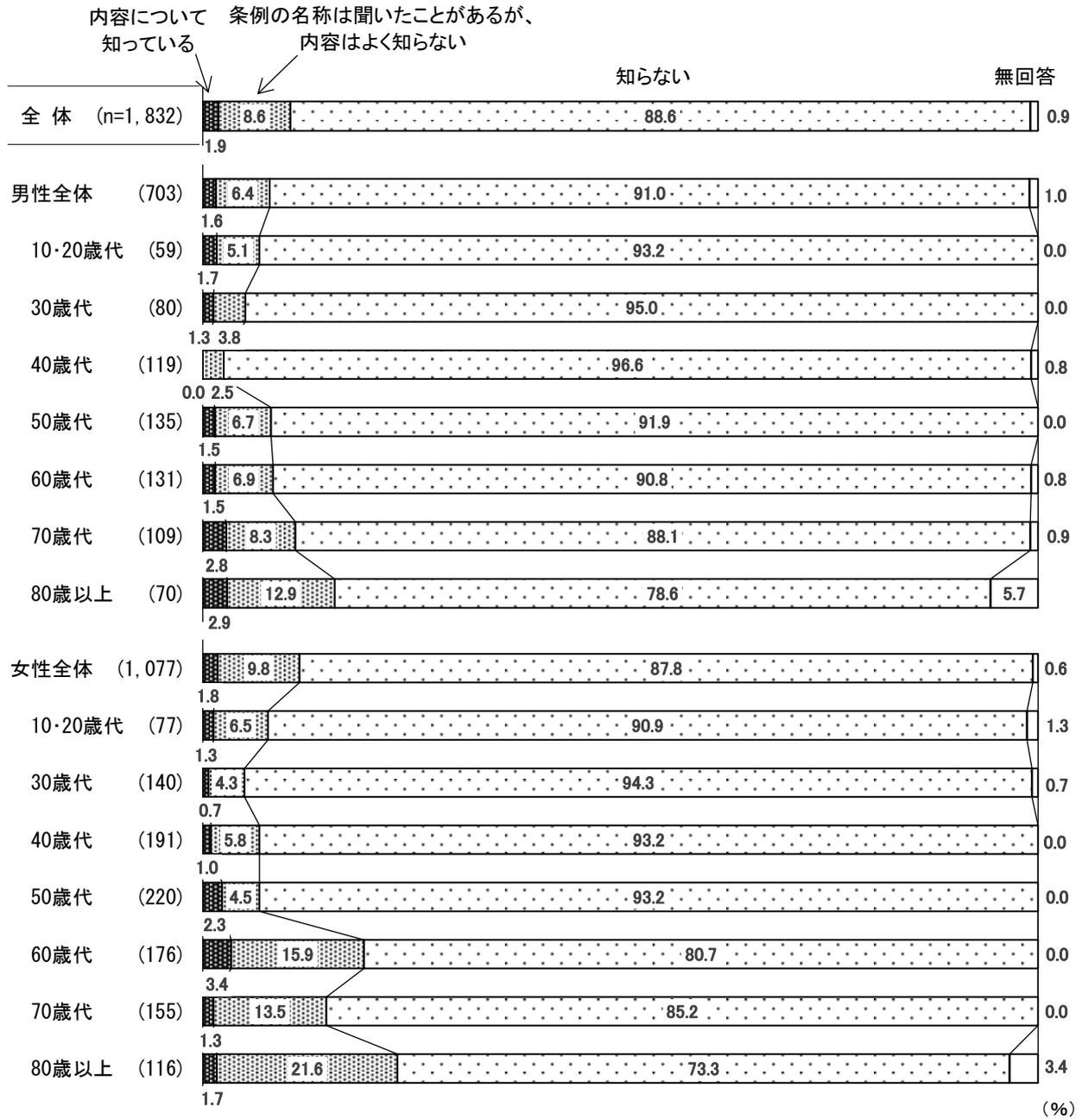
問15 区では、一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまち、世田谷を目指して、令和2年10月に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を施行しました。あなたは、この条例を知っていますか。(〇は1つ)

図6-1-1



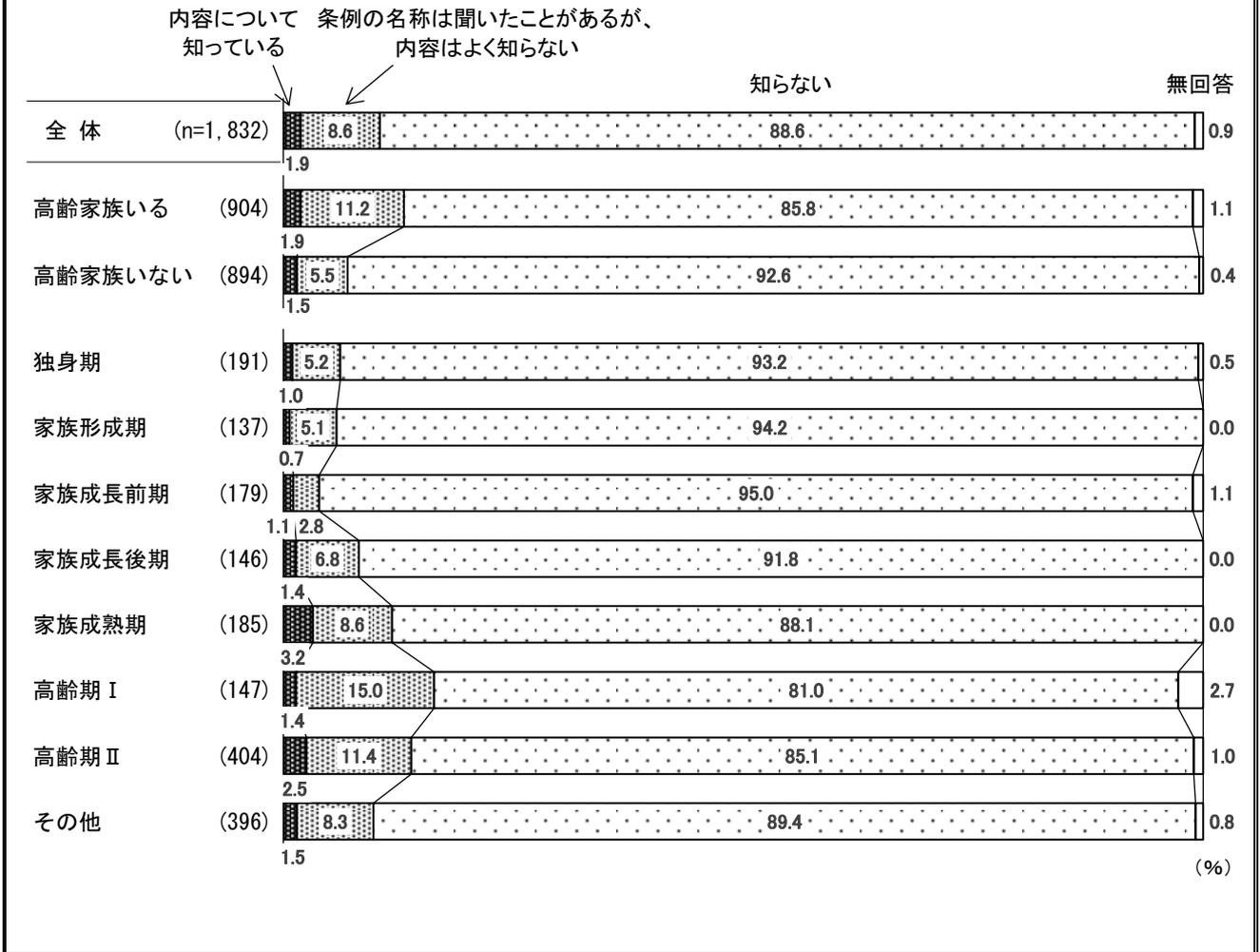
「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度を聞いたところ、「知らない」(88.6%)が9割近くと最も高く、以下、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」(8.6%)、「内容について知っている」(1.9%)と続いている。(図6-1-1)

図 6-1-2 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」は、女性の80歳以上で2割を超え、女性の60歳代で1割半ばとなっている。（図6-1-2）

図6-1-3 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度
(高齢家族の有無別・ライフステージ別)

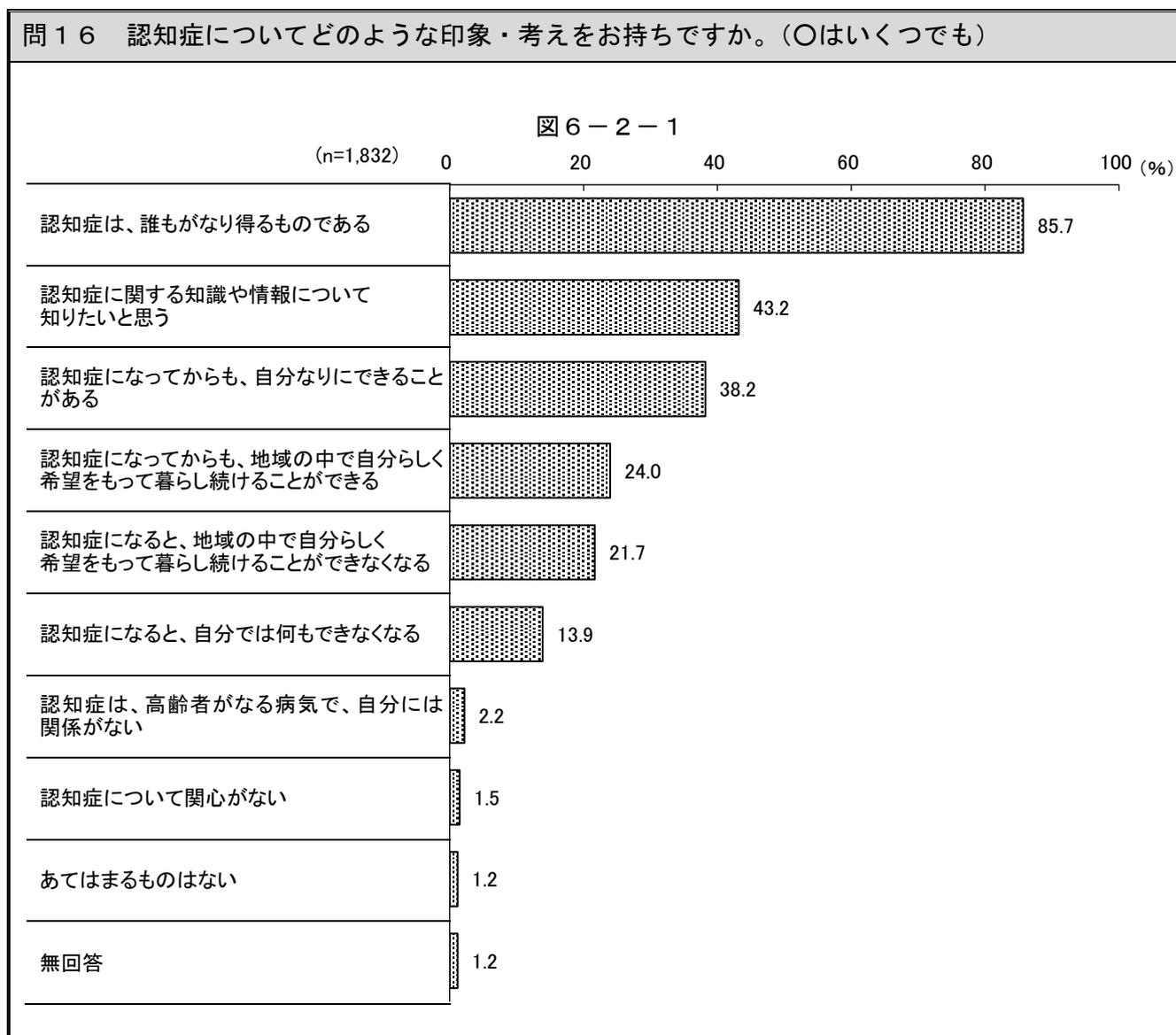


高齢家族の有無別にみると、「内容について知っている」、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」を合わせた《知っている》は高齢家族がいる世帯で1割を超え、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

ライフステージ別にみると、《知っている》は高齢期 I で1割半ば、家族成熟期と高齢期 II で1割を超えている。(図6-1-3)

(2) 認知症についての印象

◎「認知症は、誰もがなり得るものである」と考えている方が8割半ば



認知症についての印象・考えを聞いたところ、「認知症は、誰もがなり得るものである」(85.7%)が8割半ばで最も高く、以下、「認知症に関する知識や情報について知りたいと思う」(43.2%)、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」(38.2%)、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」(24.0%)、「認知症になると、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができなくなる」(21.7%)などと続いている。

(図6-2-1)

表6-2-1 認知症についての印象（性・年齢別）

(%)

	n	認知症は、誰もがなり得るものである	認知症に関する知識や情報について知りたいと思う	認知症になってからも、自分なりにできることがある	認知症になってからも、地域の中で自分らしく暮らして続けることができる	認知症になると、地域の中で自分らしく暮らして続けることができなくなる	認知症になると、自分では何もできなくなる	認知症は、高齢者がなる病気、自分には関係がない	認知症について関心がない	あてはまるものはない	無回答	
全体	1,832	85.7	43.2	38.2	24.0	21.7	13.9	2.2	1.5	1.2	1.2	
性・年齢別	男性全体	703	85.6	40.8	34.7	21.2	23.6	16.9	2.8	2.0	1.4	1.1
	10・20歳代	59	74.6	40.7	16.9	15.3	15.3	25.4	11.9	6.8	3.4	-
	30歳代	80	85.0	31.3	23.8	16.3	28.8	28.8	5.0	1.3	1.3	-
	40歳代	119	87.4	42.9	26.1	13.4	26.1	17.6	3.4	0.8	0.8	0.8
	50歳代	135	87.4	37.0	37.0	19.3	23.7	17.0	2.2	0.7	0.7	2.2
	60歳代	131	87.0	48.1	38.9	26.7	22.1	11.5	-	1.5	1.5	0.8
	70歳代	109	91.7	39.4	45.9	26.6	23.9	11.9	0.9	3.7	0.9	-
	80歳以上	70	77.1	44.3	47.1	30.0	22.9	12.9	1.4	1.4	2.9	4.3
	女性全体	1,077	86.5	45.5	40.9	26.3	20.6	12.0	1.8	1.1	0.8	0.9
	10・20歳代	77	81.8	29.9	14.3	9.1	16.9	20.8	7.8	6.5	1.3	1.3
	30歳代	140	83.6	40.7	25.0	11.4	22.9	19.3	4.3	0.7	2.1	1.4
	40歳代	191	87.4	40.3	33.0	20.4	22.5	13.6	2.6	0.5	1.0	-
	50歳代	220	92.7	55.5	45.9	30.0	19.5	5.9	-	0.5	-	-
	60歳代	176	88.1	40.9	52.3	34.1	20.5	8.0	-	0.6	-	2.3
70歳代	155	85.2	52.9	54.8	36.8	20.6	10.3	-	-	-	0.6	
80歳以上	116	79.3	49.1	45.7	32.8	19.0	13.8	1.7	2.6	2.6	1.7	

性・年齢別にみると、「認知症は、誰もがなり得るものである」はいずれの年代も7割～9割台と高くなっている。「認知症に関する知識や情報について知りたいと思う」は女性の50歳代で5割半ば、女性の70歳代で5割を超え、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は女性の70歳代で5割半ば、女性の60歳代で5割を超えている。（表6-2-1）

表6-2-2 認知症についての印象（高齢家族の有無別・ライフステージ別）

(%)

	n	認知症は、誰もがなり得るものである	認知症に関する知識や情報について知りたいと思う	認知症になってからも、自分なりにできることがある	認知症になってからも、地域の中で自分らしく暮らして続けることができる	認知症になると、地域の中で自分らしく暮らして続けることができなくなる	認知症になると、自分では何もできなくなる	認知症は、高齢者がなる病気で、自分には関係がない	認知症について関心がない	あてはまるものはない	無回答	
全体	1,832	85.7	43.2	38.2	24.0	21.7	13.9	2.2	1.5	1.2	1.2	
高齢家族別	いる	904	86.6	45.8	43.4	27.8	21.3	12.1	1.3	1.3	0.9	1.3
	いない	894	85.7	41.3	33.4	20.4	22.3	15.9	2.9	1.7	1.3	0.7
ライフステージ別	独身期	191	80.6	35.1	19.9	12.6	20.4	23.0	7.3	4.7	2.6	1.0
	家族形成期	137	85.4	42.3	27.7	16.8	27.0	21.2	5.8	1.5	0.7	-
	家族成長前期	179	84.4	39.1	29.1	17.3	29.6	17.3	1.7	0.6	1.1	0.6
	家族成長後期	146	89.7	43.2	36.3	22.6	20.5	10.3	1.4	0.7	-	-
	家族成熟期	185	89.7	46.5	43.8	24.3	17.8	7.6	1.1	0.5	0.5	-
	高齢期Ⅰ	147	88.4	44.2	43.5	26.5	23.8	10.2	0.7	2.0	1.4	-
	高齢期Ⅱ	404	84.2	47.0	49.5	32.2	22.3	12.1	0.7	2.0	1.0	1.5
その他	396	88.9	45.2	40.2	25.8	17.9	13.4	1.3	0.5	1.3	2.0	

高齢家族の有無別にみると、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は、高齢家族がいる世帯で4割を超え、高齢家族がいない世帯に比べ高くなっている。

ライフステージ別にみると、「認知症に関する知識や情報について知りたいと思う」はいずれのライフステージも3割～4割台となっている。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は高齢期Ⅱで5割、家族成熟期と高齢期Ⅰで4割を超えている。（表6-2-2）